０９Nov.2012

０８：３５　ゲストハウス前の店で朝食。ベトナムコーヒーとサンドイッチ。

ベトナムコーヒーはカップに厚さ１㎝ほどの練乳を入れておき、その上にアルミニウムのフィルターで入れる。エスプレッソ様のもの。これが中々旨い。

ビエンチャンなど南部ではベトナムコーヒーは無い。ベトナムとの交流があり、ベトナムからの移住者も多い事からかもしれない。

１１：００　SAMKANG 村に向けて出発。

知り合いの A さん夫婦がピックアップトラックで送ってくれる。ウドムサイのまちから南東方向へ約６０㎞離れた村に向かう。通常で約２時間の行程である。

途中、マーケットに寄って買い物。ウドムサイ県の政府施設に立ち寄り、昨日の長男のお宅に寄って車を進める。

この地域の農村の様子を見ながら行く。

１５：２４　SAMKANG 村のお世話になる A さん宅に到着。

１６：３０　少し休憩し、A さんの栽培するゴムの林やトウモロコシ畑、綿花の農地を見学する。

ウドムサイ県の政府機関

↑department of　industry and commerce oudomxay province とある。ウドムサイ県通商産業部とも言うべきか。A さんの兄弟がこの機関のトップを務めており、A さんの息子もここに勤務していると言う。出会って行こうということである。

構内には国連の UNIDO の車が停まっていたり、地域産品を紹介するルームがあったりである。所長室に通されたが、何やら県のおえらさんの対応でお相手できないとして、挨拶を交わすことが出来たのみ。どこかの国の役所とよく似ており、親近感を感じる。

所長室の佇まいもどこかの国とおなじである。大きな机、机の上に電話、書棚、応接セット、その上には新聞や各種パンフレット、来訪者にお茶を出す給湯機。お茶の接待を受けた。熱い緑茶である。
所長はお相手できないことを気の毒がり、帰りに寄ってください。ご飯を食べましょうとのこと。
所長の妻は立ち寄ったマーケットで店を出している。生活を垣間見るようである。

村までの道中。この地方の農村風景をご紹介します

ガソリンを補給する→
この車はジーゼル車。リッター１００円程度。相当の高額感があるだろう。
金額で買うのが普通。勿論、自動計量である。

↑ウドムサイの町はずれでトラクターが展示されているのを見た。この地域で農業生産場面で導入されているのは見たことが無い。中国資本のプランテーションなどでは使われるのかもしれない。
馴染みのある kubota のロゴである。この画像は販売店のようだが、ラオスではトラクターを所有し、全国を移動して農作業の請負をする形態が起業されているやに聞く。そうであれば、画期的なこと。
農業生産力を著しく増強するものと思う。それを地域農業の共同化の視点で、地域自らが生産組織を立ち上げられる筈である。それを期待したいものだ。国の指導に期待する。中国とは異なる道を行こう。

←ウドムサイのまちを離れ、農村地域に入って間もなく、道路ぎわに野市が立っていた。この地方らしいしつらえの施設である。覗いてみることにした。バイクでの通行者が立ち寄って買っていく。ここには外国人ツーリストの通行は全くない。山から下りてきて出店しているとのこと。下の画像の物が売られていた。興味津津。

←野菜、香草、香辛料など。欠かすことのできない美味いものだろう

巨大なネズミか→
モグラの類。野生動物。動物性蛋白源。

↑極彩色の美しい小鳥を食する

↑いのししの生肉

↑小型の野生獣が並びます

森林保全地区

↑道中、森林保全地区だと言う区域に出くわした。ラオスは焼畑から、常畑化による森林機能の疲弊に悩まされていることについては、先に触れた。地域指定による保全努力がなされているようである。
A さんによると、日本の支援による送電線の敷設にあたって、日本は樹木が送電線に触れることによる発火を防止するよう措置してくれたと喜んでいた。見たところ、原生林ではない二次林と思われるが、いたるところ、こう言った鬱蒼たる森林に覆われていたことが想像出来る。

ここから、少しこの地方の農業概況や農家生活に触れてみることにします。

↑広大な優良農地が広がる。川が流れ農地をうるおす。なだらかな里山、深い山地が続く。数十ｈａに及ぶとみられる平坦で連旦した農地塊が続く。水稲の刈り取りが終わった田には水牛が放牧されている。牛の数はめっきり少ない。牛はビーフキャッツル（肉牛）である。区画は不整形で灌漑施設、農道ともきわめて不整備。
ここでは二期作はできない。里山の焼畑の陸稲や常畑化したトウモロコシ、山のチーク材、ゴム栽培などとあいまって、この国では有数の農業地域と推察される。

↑時折、バナナ栽培がある。これらは中国資本による集約的な栽培になっている。右の耕運された広い畑地は中国資本が土地利用権を設定して、菜豆やスイカを栽培すると言う。こうした農地が散在する。

←動画
水稲の刈り取り風景。広大な平坦な農地

↑水稲の刈り取り風景に出合う。手狩りである。思いのほかの排水の悪さ。くるぶしまで泥につかっている。右の農家のヤシの木が無ければ、一昔前の日本の農村風景である。この時期は学校の子供たちも先生の家に出かけ手伝うそうだ。ここでも子供たちのそんな風景が見られた。総出の刈り取りである。
この地方の今の気候は日本の９月中旬から下旬の頃の暑い日を思わせる。朝夕は涼しいが、１０時頃から陽光が厳しく熱くなる。ただし、乾燥しているため、日陰ではすごしやすい。

←白く帯状に見えるのは河川堤防のススキの出穂である。
日本のものとほぼ同じである。この時期に出穂するという。
これが農家生活を快適にする素材であることが判る。自家生産の綿布に詰め込んで敷き布団の寝具とする。快適なマットレスである。化学物質のマットレスに比べ、綿布と相まって、格段に涼しく快適。すぐれものである。

Ａさんの経営する農地を見学した

←輪閑型の焼畑から貴重な換金作目であるトウモロコシに常畑化したものと思われる。実取りの飼料用として中国やベトナムに輸出される。黄色からオレンジ色に近くカロチン濃度の高いものだ。養鶏用としては特に優れていると思われる。通作距離（徒歩１５分）も短く、なだらかな里山である。

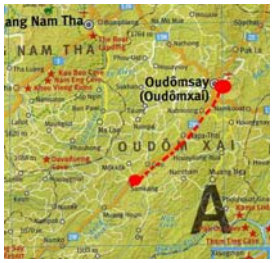
←綿栽培。これは小規模である。５月に４～５粒の種子をまき、３本を残す方法。
夫婦で３０分ほどで１０kgを摘み取った。染色から織まで自家生産。生活衣。

↑遠方の深い山も森林被覆率はゼロに近い。

↑周辺の山の風景。夕陽を浴びて美しい光景であるが・・・・

←ゴムの植林。
中国の業者との契約栽培と言う。業者から苗木の提供を受けて、一定の価格で買い取る契約。この場合、買い取り価格は低く設定されているのだろう。あるいは、苗木を買い取り、樹液を時価で販売する。二つの形態がある。
Ａさんは、後者の方式を採った。
生ゴムは２万K（200 円）/Kg
業者の噺では樹液が採取できるのは３０年から４０年と言う。この間、一本のゴムの木から累計１２０万K（1 万２千円）の収益に成ると言う。その後は木材や家具の材料になると言う。ゴムの木は土地がやせるとのこと。
この木は来年あたりから、樹液が採れるとのこと。そうなれば、トラックではなく、乗用車が買えるとの皮算用。
水牛は概ね、この地域でも農耕用の役割を終えて、ビーフキャツル（肉牛）になっているが、これを売って、苗木の費用に充当することが多いようだ。
稲刈り後の田に水牛を放牧したいが、村の水牛の数が減少したとのこと。ゴムの他に、チークがこの地域以外にも、盛んに造林されているのが見られる。

Sam kang 村のＡさん宅に到着・二晩の宿をおせわになった。農家生活を紹介します。



←ウドムサイからの道路経路
南西のタイ方向へ向かって約６０km

動画→
車窓の風景・ウドムサイ郊外を離れる

↑日は西に傾く頃。二階建てのお宅。庭にはモミの乾燥作業。ナツメヤシの大木が木陰をつくる。